

令和5年度

南アルプス市立白根源小学校 学校評価

令和5年度

白根源小学校グランドデザイン

ふるさとを愛し、生きる力を備えた児童生徒の育成



ふるさとを愛し、人間性豊かに、自ら考え、未来にたくましく生きる子どもたちの育成



白根源小学校の理念に基づき育てたい4つの力

◇人を大切にする力 ◇自分の考えを持つ力 ◇自分を表現する力 ◇チャレンジする力
すべての教育活動で実践し、取り組む。

学校経営の基本方針

- (1) 学ぶ力を育てる学校づくり
- (2) 安心してのびのびと生活できる学校づくり
- (3) 組織で子どもを育てる学校づくり
- (4) 保護者、地域に開かれた信頼される学校づくり

学ぶ力を育てる学校

- * 基礎・基本の定着
(学習者の状況、学習態様の確立)
- * 個性に合わせた学習指導の充実
(少人数をいかに授業で活用)
- * 取り組みを大人数で主体的に実践する
取り組みの徹底づくり
(成功体験、困難を乗り越える習慣の定着)
- * 学び続ける意欲の形成
(学習意欲の向上、学習態度の育成促進)
- * 豊かな国際指導
(英語力向上の推進、読解力思考力向上)

安心してのびのびと生活できる学校

- * 積極的な児童理解
(個性豊かなすべての児童に関わる授業実践)
- * 児童会・学級活動の充実
(全員参加で自分の力を発揮する力を養う)
- * 運動の日常化
(運動の日常化につなげる授業実践、
一斉大運動の推進)
- * 健康・安全活動の推進
(早寝、早起き、朝ごはん、すっきりおしろいの実践、
いじめ防止対策の徹底、PDRの実践)
- * 安全教育の推進
(安全文化の醸成、安全文化の継承)

組織で子どもを育てる学校

- * ふるさと教育・防災教育の推進
(家庭学習を伴った主体的な取り組み)
- * 専小のきまり・規範・行事・あそび活動の推進
(あそびから学ぶ学習態度の確立)
- * 人や物との関わり方の重視
(おもてなしの心、おもてなしの文化)
- * 特別支援教育や道徳教育の改善
(授業内容の充実、支援を要する児童の育成、
道徳の授業実践の推進、小笠原杯)
- * 課題を抱える児童への対応
(早急な対応を促す体制の構築)

開かれた信頼される学校

- * 保護者や地域との連携・協働
(部活や地域の連携、地域や育成会連合への積極的参加、ボランティアの活用、家庭学習の充実)
- * 積極的な情報発信・開放日の設定
(学校行事の地域開放や公開)
- * 学校評価の活用
(評価結果の活用や改善)
- * 交流教育の充実
(交流を通して子どもたちの心を開くこと、
いじめ防止を大切にする)

チーム源としての教職員の働き方

＜働く一歩を深くする一チーム力を活かす＞

- * 信頼共有の徹底
- * 一人ひとりの個性を活かす
- * 校務分掌の柔軟化（一人に任せない）
- * 時間を守る
- * PDCAサイクルによる行事の改善
- * 新たな仕事へのチャレンジと精選

保護者・地域から信頼される学校

「地域に開かれた学校づくり 保護者・地域との連携」

148年の伝統

「地域に根ざした学校づくり」

平成5年度 学校評価について

○法的根拠

学校教育法

第 42 条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

第 43 条 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

学校教育法施行規則

第 66 条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第 67 条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者(当該小学校の職員を除く。)による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第 68 条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

○学校評価計画

6月21日(水)	第1回学校関係者評価委員会(委嘱式)
11月13日(月)	学校評価実施についての提案(職員会議)
11月17日(金)	自己評価、児童アンケート配信(クラスルーム)
11月17日(金)	保護者アンケート配信(学校メール)
11月30日(木)	自己評価、児童アンケート、保護者アンケート(入力済み)
12月20日(水)	学校関係者評価委員会説明資料 完成→校長提出(確認・修正)
1月10日(水)	学校関係者評価委員会説明資料 職員説明(職員会議)
1月16日(火)	学校関係者評価委員会 実施(給食試食会)
1月19日(金)	学校関係者評価書 校長提出(確認・修正)
1月22日(月)	学校関係者評価書 職員報告(クラスルーム)
1月29日(月)	学校関係者評価書 学校関係者評価委員に配布 市教委に提出
2月下旬	南アルプス市立白根源小学校令和6年度グランドデザイン完成

自己評価 考察

全体を通して

すべての項目で、肯定の評価が多かった。学校長の考える学校経営グラウンドデザインのもと、全教職員が一丸となって学校活動に取り組んでいると言える。ただ、A評価よりB評価が増えている項目については、現状を考察し、より良い改善に向けていきたい。

御勅使中学校区小中一貫教育（1～3）

◎おおむね肯定的な評価が多かったが、一部で改善が必要と考える評価が見られた。

- ・今年度より本格的に小中一貫教育がスタートし、小中一貫教育推進協議会を核として、御勅使中学校区3校で小中一貫教育研究会を組織しながら連携の取り組みを進めてきた。
- ・小中一貫教育学校目標である「ふるさとを愛し、生きる力を備えた児童生徒の育成」の実現については、すべての職員が肯定的な評価をしており、小中一貫教育について意識が高まっている現状がうかがえる。
- ・小中の児童生徒の交流や教職員の交流については、A評価が62.5%と高く、小中合同でのあいさつ運動や中学校と小学校2校との合唱交流会など具体的な取り組みを積極的に行っている成果といえる。一方で一部C評価も見られたので、今後はさらに小中連携の取り組みの充実を図りながら、小学校2校の連携についても取り組んでいきたい。
- ・「御勅使スタンダード」の実践については、A評価が62.5%と高く、先生方が日々の教育の中で小中連携を意識した取り組みをしていることを裏付けている。一方で一部C評価も見られたので、年度当初に「御勅使スタンダード」を全職員で確認するなど、常に意識しながら教育活動を行えるようにしていきたい。

学校教育目標、経営方針・学校運営（4～10）

◎AB評価の割合に若干の変動は見られるものの、すべての項目において、肯定的な評価であった。

- ・年度当初に確認した学校教育目標や指導重点については、各職員が目標を共有しながら、同じ方向を向いて学校教育に参画している状況が確認できた。
- ・「PDCA サイクルに基づいた改善の意欲」「校務分掌に基づいた学校運営の参画」については、職員個々の意欲が高く、それぞれの役割の中で機能的に動いていると感じる。また、「職員の相互理解・信頼関係」「チーム源の下での指導」についても評価が高く、職員が相互に連携を取りながら一丸となって児童の教育に向かっているといえる。
- ・「危機管理意識の保持」については、職員自身の意識を高める取り組みに加えて、自然災害・事故などの緊急事態、いじめ等の対策など具体的な取り組みの充実を図っていく必要がある。折に触れて職員間で話題にし、互いに意識化を図っていくことも必要である。
- ・「専門性の向上」については、各教職員の研修履歴にもとづいてより計画的な研修を行っていくなど、職員の教員としての資質向上を目指した取り組みがより重視されている。普段の学校生活の中では、なかなか研修の時間が取れない現実もあるが、長期休業等の機会を活用して専門性の向上を図っていきたい。

学級経営、学習指導（11～14）

◎すべての項目において、肯定的な評価であった。

- ・児童理解については、情報交換やケース会議などを通して個々の児童を共通理解し、学校全体で支援していこうとする風土がある。それらがより良い学級経営につながっていると考える。ただ、特別な支援を要する児童の割合が非常に高く、解決が難しい事案も多い。職員相互の連携とリレーションを大切にしていきたい。
- ・学習指導に関しては、市単講師による学習支援体制を仕組むことで個々の支援を厚くしたり、校内研究と絡めながら、学習場面におけるICTの積極的な活用を進めたりしている。特にICT活用では、授業の中でジャムボードやスプレッドシート等を活用して対話的な学習を充実させたり、個々の学習の興味や進度に合わせた個別最適な学びへのICT活用に取り組んだりしている。
- ・運動会や学習発表会などの学校行事や縦割り活動などの児童会行事において、少しずつコロナ前と同様の取り組みができるようになってきた。上級生と下級生とのかかわりを意識した活動も増え、それらの取り組みを学級経営や学習指導に結び付けて成果を上げている。
- ・家庭学習については、昨年度に比べてA評価が大きく伸びている。家庭学習週間を設けるなどして、家庭への協力を呼び掛けたり、タブレットを活用した家庭学習に取り組んだりした成果が表れている。

児童理解，生徒指導（15～17）

◎すべての項目において，肯定的な評価であった。

- ・「児童の規範意識への指導」については，「あいさつ」「くつの整頓」「うがい・手洗いの遂行」など，全職員で確認しながら指導に当たってきた。多くの児童が落ち着いた生活を送っていると感じる。また，特別な支援を必要としている児童への特性に応じた対応やいじめ・不登校・問題行動への対処についても，担任・教務・養護教諭・特別支援コーディネーターなどが連携し，外部機関も積極的に活用する中で，意欲的に取り組んできた。今後も，担当を中心に組織的なチームとしての動きを進めていくことが大切だと感じる。

保護者・地域連携（18）

◎肯定的な評価が多い。

- ・担任や養護教諭が保護者とこまめに連絡を取り合う姿が日常的に見られ，保護者の学校への信頼感を生んでいると感じる。これからも家庭とのきめ細かな連携を大切にしていきたい。
- ・地域の方の学校への関心は依然として高い。地域の方による児童登校中の見守りや，「にこにこサロン」のお年寄りによる学校の農作業へのお手伝い，家庭科の授業でのミシン指導のボランティアなど多くの協力が見られた。また，愛育会との連携活動も行っている。今後も地域との結びつきを大切にしたい。
- ・学校からのお便りは充実しており，校長による学校だより，各担任による学年通信，各分掌からの保健・図書・給食だよりなど，その時々に合わせて情報提供が家庭との共通理解を育てている。

児童アンケート 考察

全体を通して

全体的に肯定的な評価が多かった。多くの児童は、項目1で「学校は楽しい」と答えている。ただ、CD評価の児童も一定数はいる現実を受け止め、今後も職員全員で全校児童を見守り、声をかけ、安心感のある学校生活へと支援していきたい。

学習・授業について

- ・学校の授業については、96%の児童が「分かる」と答えている。ただ、CD評価の児童が4%いた。どの学年が進むにつれて学習内容も難しくなっているため、次第に学習理解に困難さを抱える児童もいると思われる。本校では、特に算数の授業において学習支援体制を強化し、TTでの支援を行ってきた。今後も粘り強く支援を続け、「分かる」楽しさを味わわせていきたい。
- ・今年度からタブレットを使った学習についての評価項目を加えたが、95%の児童がタブレットを使った学習はわかりやすいと答えており、学習場面におけるタブレットの活用が一定の成果をあげている。今後もさらに活用の幅を広げていきたい。一方でD評価をつけた児童が5%ほどいるので、どこにわかりにくさがあるのか、対策を講じていきたい。
- ・項目4の「授業中に質問や意見を言う」で、CDを付けた児童が40%近くおり、他の項目に比べて評価の低い傾向が見られる。これまでコロナ感染症対策のため、グループでの学習や自由な対話の時間が制限されたこともあり、児童が自由に発言できない雰囲気があるのかもしれない。今後は、授業や日常の活動において児童が話したくなる課題の設定や発言の機会を多く設けるなどを通して、児童が自信をもって発言できる雰囲気づくりを進めていきたい。
- ・家庭での学習状況については、昨年度に比べてA評価よりB評価が若干増えているが、全体としては良く取り組んでいると捉えることができる。今後はタブレットの持ち帰りも含めて、家庭における学習環境づくりが大切であるので、今後も家庭と連携する中で本人を励まし、家庭学習の充実を目指したい。

生活面について

- ・6～8の各項目より、多くの児童が学校生活の中で良好な人間関係を構築できている。項目7については今年度から加えた項目であるが、98%の児童が肯定的な評価をしており、源小の児童の良さを表す結果となった。普段見ている中でも異学年の児童間のかかわりも多く、子ども同士の結びつきは良好に深まっている。日常的には子ども同士のトラブルも見られるが、その都度、担任をはじめ職員が迅速で正確に関わり、友達関係を良好に育てていると感じる。
- ・自分から進んであいさつをしているかの項目については、地域の方々へのあいさつも含めて、子どもたちの自己評価は高いと言える。しかし、CD評価の児童も少なからずいることを考えると、小中一貫教育の取り組みや児童会活動などを通して、自ら進んであいさつのできる児童の育成に取り組んでいきたい。
- ・項目9～10より、学校での決まりを守ったり、役割を果たしたりしている児童の割合は、どちらも95%と高くなっている。各クラスでの取り組みや児童会を中心とした全校での取り組みの成果である。「掃除をしっかりとる」「自分の仕事に責任をもつ」といった良い伝統が根付いていることを感じる。
- ・教師と子どもの関係については、項目12～13より、非常に信頼関係が強いことが分かる。日頃の職員の真摯な取り組みのおかげだと自負したい。今後も全職員で子ども達を見守り、情報交換をしながら、児童の心の安心と安全を図っていきたい。
- ・項目14の自分には良いところや得意なことがあるかの質問には、90%の児童が肯定的な評価をしているものの、10%近くの児童がCD評価をしていることから、今後は様々な場面で児童の自己肯定感を高めるような取り組みを進めていきたい。

家庭での生活について

- ・早寝・早起き・朝ごはん等の基本的な生活習慣を問う項目については、昨年度に比べてCD評価をつける児童の割合が若干増加している。生活習慣の改善には、家庭との連携と協力が不可欠なので、保護者とのコミュニケーションを図りながら改善につなげていきたい。

- ・項目16～17より、児童は学校のことについて保護者とよく話をしている。ただ、項目17の「災害が起こったときのことを話しているか」については、40%の児童がCD評価である。大規模地震・河川の水害などが叫ばれる現在、家庭でも日常的にこのような話をすることが求められるので、学校からも呼びかけていきたい。
- ・項目20のゲームやパソコン等のルールについては、97%の児童がAB評価をしており、児童のルールを守ることに對する意識の高さが見られる。最近はSNS等を原因として、いじめにつながるケースや犯罪等に巻き込まれるケースも後を絶たないことから、引き続き児童への働きかけをしていきたい。

わかば支援学校との交流について

- ・これまではコロナの影響でわかば支援学校との直接交流ができなかったが、今年度は全学年でコロナ前のように、わかば支援学校の児童との直接交流を実施することができた。児童の評価でも、94%の児童がAB評価をしているように、源小学校の伝統であるわかば支援学校との交流の意義を再確認できた結果であった。交流は続けることに意義があるので、今後もさらに交流活動を充実させていきたい。

携帯電話・スマートフォンの使用について

- ・携帯電話やスマートフォンを持っている児童が増えている。ただ、使うときの家庭内のルールについては、「ない」と答えている児童の割合があまり変わっていない。学校では5年生でスマホ・携帯教室を開き親子で学ぶ機会を持っているが、今後もこのような機会を継続していく必要がある。

保護者アンケート 考察

全体を通して

すべての項目で肯定的な評価が多かった。保護者の多くは、学校に信頼をよせていることが分かる。少数のCD評価の意見にも耳を傾けて、保護者と足並みのそろった学校運営を行っていききたい。

学校生活・学習・授業について

○多くの項目において、肯定的な意見が占めたが、CD評価の割合が高い項目も見られた。

- ・項目1の「児童が学校に行くのを楽しみにしている」については、AB評価をしている保護者が87.6%と多数を占めたが、児童の評価と比較するとCD評価をつけている割合がやや多かった。児童の気持ちと保護者のとらえ方に違いが見られた。家庭での児童の発言が影響しているためであると考ええる。
- ・項目2の「児童は学習がわかっている」については、AB評価をつけている保護者が90%と児童と同様に高い値となっている。授業参観や家庭学習の様子から、保護者が児童の実態をしっかりと把握していると思われる。
- ・項目3の「タブレットを学習に生かしている」については、80%の保護者がAB評価となっているものの、CD評価をつけた保護者が20%と児童と比べると高くなっている。保護者に向けてタブレットの活用状況をきちんと伝えていく必要があると考えている。
- ・項目4の「児童は授業中によく発言している」については、CD評価をしている保護者が48%と高い割合となっている。児童も同様にCD評価の割合が比較的多いことが課題となっていたので、まずは児童が実際に授業中の発言が増えるように取り組んでいきたい。
- ・項目5の「児童は家庭学習をよくしている」については、児童と比べてCD評価をつけている保護者の割合がやや高い傾向が見られる。保護者の期待値と児童の自己評価に差があるためだと考える。

人間関係・生活面について

◎いずれも肯定的な評価が多かった。

- ・項目6~8については、AB評価をつけている保護者が90%をこえる項目が2項目あり、児童と同様の結果となっている。項目8「困った時に相談できる友だちがいる」の項目については、CD評価が29%と児童に比べて保護者の割合が若干高くなっている。児童は友だちに相談しているが、そのことを保護者に伝えていないという実態があることが想像できる。
- ・項目9のあいさつについては、CD評価をつけた人の割合が児童と保護者で差が見られ、児童にもっと積極的にあいさつをしてほしいと考えている保護者が多いことを示している。
- ・項目10・11については、保護者、児童ともに、AB評価が90%を超えるなど高い割合を示している。きまりをきちんと守ったり、自分の役割をしっかりと果たしたりする児童の実態がうかがえる。
- ・項目12・13については、いずれもAB評価が90%を超えていた。担任の関わりはもちろん、全職員で全校児童・全保護者を支援していこうとする姿勢が、保護者にも評価されていると感じる。課題を抱えた児童については、今後も個別での支援を大切にしていきたい。

家庭での生活について

○項目によって肯定的な評価が高い項目とCD評価の割合が高い項目があった。

- ・項目15「基本的な生活習慣やしつけに注意を払っている」については、AB評価をつけた割合が95%と高い値を示しており、保護者が児童の生活習慣についてしっかりと気を配って実践している実態がうかがえた。
- ・項目16~18については、いずれもCD評価をつけた割合がやや多かった。特に災害についての話題については、なかなか家庭で話し合っていない実態が浮き彫りになった。保護者に対して児童と話をする機会を意識的に作るような働きかけが必要だと考える。また項目18については、コロナ禍の影響で地域の行事も減ったことも影響していると考ええる。今後は徐々に以前のように戻るので、地域との関わりも意識した働きかけをしていきたい。

わかば支援学校との交流について

- ・項目19「支援学校との交流により思いやりの心が育っている」については、AB評価をつけた保護者が91.5%と高い値を示した。今年度からコロナ禍以前同様に、わかば支援学校児童との直接交流を実施することができた。今後も

交流を継続することで、児童の思いやりの心を育てていき、保護者にも交流の意義を認識してもらえるよう情報発信をしていきたい。

学校からの情報提供について

- ・項目20より、AB評価をつけている保護者の割合は94.6%と高く、学校からの情報がしっかりと保護者に伝わっていることがわかる。今後も、学校HPや学校、学年からの通信など積極的に情報発信に取り組んでいきたい。

ゲーム・携帯電話・スマートフォンの使用について

- ・項目21については、AB評価が84.5%と高く、保護者と児童がきちんとルールを決めて取り組んでいることが分かる。ただCD評価も一定数あること、ゲームについては児童から直接話を聞くと長時間遊んでいる児童が少なくないことなどの現実から、今後も保護者自身に危機感をもって子ども達に向き合ってもらえるよう、親子での研修等の機会を設定していくことが必要である。
- ・項目22については、今のところ携帯やスマートフォンを持っている児童の割合がそれほど高くなく、持っている児童も保護者ときちんとルールを決めて使っている実態が見える。ただ、今後は携帯やスマートフォンを持つようになる児童の割合が高くなることが予想されるので、適切な利用についての働きかけを続けていきたい。